

## 世田谷緑道

国立病院機構災害医療センター  
中央放射線部 技師長  
大棒 秀一

私の住む世田谷には2006年3月現在で中小河川を暗渠化し、その上部を有効利用した16本の緑道があります。その中の、北沢川、烏山川、目黒川の3緑道が私の散策コースで、今日はその散策コースを案内させていただきます。「北沢川緑道」と「烏山川緑道」の2つの緑道が合流した地点から「目黒川緑道」となり、国道246号の大橋まで暗渠化され国道246号越えて目黒川として開渠し、東京湾に注ぎます。各緑道には、樹木の他に数々の草花が植えられ、四季を感じさせる緑道として、ここを通る人々を和ませています。

私の散策は、北沢川緑道が淡島通りと交差するところからスタートします。北沢川緑道を上流へと進むと環七、小田急豪徳寺駅、小田急経堂駅と続きますが、緑道せせらぎは環七までで、北沢川上流への散策はここまでとしています。ここは桜が150本あり桜並木がすばらしく深緑でリフレッシュしたい方へのお勧めのコースです。淡島通りから目黒川緑道までの下流のコースはランニング、散歩する人が多く、せせらぎでザリガニ釣りを楽しむ人など市民の憩いの場として愛されているコースです。昨年台風の後、せせらぎの水位が下がり鯉やドジョウ、ザリガニが水場を求め右往左往していることがありました。台風が来るので上流の水源を止めたのかと心配で調べ

てみました。せせらぎの水源は、東京都下水道局落合水再生センター（下水処理場）で、水質を向上させて処理した再生水（高度処理水）を利用しているそうです。その再生水が、地下を通して、せせらぎに送水されていて大雨注意報が出ると、再生センターからの送水は停止となり、せせらぎの水も循環できなくなり、せせらぎの水位が下がることがあると知りました。

烏山川緑道は、歴史にゆかりのある神社仏閣があり、歴史に興味のある方にお勧めのコースです。中でも豪徳寺は、招き猫の発祥の地とされるエピソードがあります。江戸時代初期に彦根藩二代目藩主、井伊直孝が鷹狩りの帰りに、夕立に見舞われ雨宿り場所を探していると、豪徳寺の前で寺の和尚さんが飼っていた猫が手招きする仕草をした。そこで寺の門をくぐり、雨宿りしながら説法を聞いていると、先ほど通った道に落雷があり、命拾いした井伊直孝はお寺の再建を約束し、豪徳寺は井伊家の菩提樹となった。老中井伊直弼のお墓が豪徳寺にあるのも、そういうご縁によるものとされている。貧乏寺が井伊家の菩提寺となり、立派な寺になる縁を作ってくれた猫を招福猫児（まねきねこ）と称えて崇めるようになったのが発祥の地とされる由縁であります。

目黒川緑道は「北沢川緑道」から続く「せせらぎ」に、鴨、鯉、ザリガニなど様々な生物がすみ着き、護岸の水生植物と織りなす風景は昔、ここが川であった頃の偲ばせる水辺の環境が形作られています。初夏には、鴨の子育てが間近で見られます。人間を外敵から守るために利用して子育てする姿は都会のオアシス、お勧めのスポットです。

区の都市計画と住民参加のネットワークまちづくりで、区民から愛される世田谷緑道は、仕分けの行く末を憂う国立病院機構の羅針盤となり得るものかと考えられるのも世田谷緑道です。

## お詫びと訂正

本誌64巻3号224pの著者所属等の表記に誤りがありました。お詫びして下記に訂正いたします。

(誤)

貫井祐子※ 安井玲子 國松淳和\*  
国立国際医療センター国府台病院※※精神科 \*内科  
※※平成22年4月より国立国際医療研究センターと施設名変更

(正)

貫井祐子 安井玲子 國松淳和\*  
国立国際医療センター国府台病院※ 精神科 \*内科  
※※平成22年4月より国立国際医療研究センター国府台病院と施設名変更